

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	北星学園大学	整理番号	1-2-051
応募テーマ	主として教育課程の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	実習における事前・事後指導の組織的な実施		
申請単位	学部単位		
申請担当者	池田 雅子		
<p>(取組の概要)</p> <p>福祉実習教育は、学部単位での取り組みが難しいうえ、施設からの理解も充分ではないため、各大学で大きな課題となっている。本学では学科創設時から実習を重視しているが、その基盤の上に1996年社会福祉学部への改組を機に、教育内容の充実と組織的な取り組みを行ってきた。学内では、カリキュラム上「学部共通科目」に位置付け、関連科目との連携を明確化し、国の基準を超えた事前・事後指導と1週間の「入門実習」を設置した。さらに教員・助手・事務、学部全体からの協力教員など、教育上の支援体制の充実を図ってきた。さらに学外からは、現場職員に臨時講師（フィールドインストラクター）を委嘱し、事前・事後指導やマニュアル執筆等への協力を得ている。これらの工夫・改善によって、学生の授業への満足度や福祉実践への意欲の向上が見られる。また学内での事前・事後指導の充実を通して得た様々な課題をもとに、北海道内さらには全国の大学や施設に発信し、共同で実習教育の基準作りに取り組んでいる。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、北星学園大学社会福祉学部の教育目標である「人間性を培うとともに、社会性・国際性を豊かにする広い教養を身につけ、さらにそれぞれの専門領域において深く専門の知識・技術を習得し、知的・道徳的及び応用能力を発揮できる人材育成」を達成するため、既に8年以上にわたって組織的に実施され、現場実習の事前・事後指導の充実や2004年度の社会福祉士の合格者数118名に実証されるように大きな成果を上げています。</p> <p>現在、大学には、社会・経済構造、産業構造の急激な変化に対応できる特色ある教育が求められており、継続的な実習教育の組織の充実や、この取組に対する外部評価の実施や改善という点は、こうした社会の多様な要請に十分応えた優れた取組であると認められます。特に、前者の事前の事例研究や地域研究の充実、現場のフィールドインストラクターの起用の努力などについては先進性も認められ、今後現場実習の効率化が求められつつあることを鑑みれば、この取組は他の大学、短期大学の参考になり得る優れた事例であると言えます。</p> <p>また、この取組には、カリキュラム全体の効率化と長期の実習との時間的バランス問題や理論的概念と現場実習との有機的連関性の明確化という課題も残されていますが、これを克服すれば更なる発展が期待されます。</p>			